

事例②<「暮らしやまちの化学物質情報」の住民にわかりやすい発信・共有と、環境学習>
都・区・地域の協働による「地域の化学物質リスクコミュニケーションの取り組み」
事例:新宿環境情報ネットワーク

背景:

環境改善に向けた「パートナーシップ」、地域を軸にした「協働」が重要になる中、環境都市新宿の実現に向けて、1999年以來、新宿区内を中心にした住民・事業者・行政職員の立場と専門分野を超えた信頼を育み、ゆるやかな連携を推進。3ヶ月ごとの情報交換会開催。その他、環境 ISO 取得事業者のネットワーク化や、地域と学校をつないで環境学習を応援する仕組みづくりなど、「協働」プロジェクトを推進中。登録者300人。代表:崎田裕子

内容:

2002年東京都環境局化学物質対策課、新宿区環境保全課、新宿環境情報ネットワークの連携で、化学物質に関するリスクコミュニケーションを地域で連続実施中。

- ① 3月、ネットワーク主催で、「『新宿の環境学習応援団』まちの先生見本市」を開催。都が「化学物質に関する環境学習プログラム」を展示紹介
- ② 6月、都が PRTR 情報を公開する簡易版環境報告書を提案。協力企業を募集。府中市内事業者で「環境報告書を読む会」を実施。地域住民150人が参加。
- ③ 8月、新宿リサイクル活動センターにて区民企画「親子エコライフ教室神田川探検」実施。下水処理場見学、「くらしのなかの化学物質」実験学習等
- ④ 9月、新宿リサイクル活動センター「まつり」行事で、親子「エコプラントゲーム」を実施。
- ⑤ 10月、ネットワーク世話人会で大人対象に「エコプラントゲーム」を実施。普及策を検討
- ⑥ 12月、中学校4クラスで「エコプラントゲーム」を実施。(協力:慶応義塾大学吉川先生)

実施状況

- 地域行事・学校で大人や小中学生を対象に、「くらしと化学物質」を視点にした学習会や「エコプラントゲーム」を連続実施。
事業者の環境低減活動や化学物質による環境リスクへの気づきのきっかけづくり。
- 地域住民・地域事業者・区役所・東京都が、協働で化学物質のリスクコミュニケーションを実施していることが、地域で環境活動を実施している人たちに認知されつつあり、化学物質問題が特殊な分野ではないという状況が生まれている。

課題・評価:

- 実施中であり、取り組みの成果や評価は今後
- 個別プログラム（エコプラントゲーム等）のイベントや単独授業での実施だけでなく、中学生が調べ学習の導入にする場合など授業計画指導書があると、効果的。
- 多様なプログラム情報を教育現場や環境活動に情報提供する必要性
- 指導者側の人材が少なく、化学物質のリスクコミュニケーション人材育成が必要

今後

- 2003年2月8日「『新宿の環境学習応援団』第2回まちの先生見本市」にて
(主催:新宿環境情報ネットワーク、会場:新宿区立大久保中学)
東京都環境局がこれまでの取り組みを報告し、「エコプラントゲーム」を指導者の研修を念頭に実施予定(協力:早稲田大学環境ロドリゲス)